

【企画展】 ようこそ子どもの国へ



『浜松の童画家 本田庄太郎展』開催中

企画展【ようこそ子どもの国へ 『浜松の童画家 本田庄太郎展』】が7月1日から始まりました。

「童画」とは子ども向けに描いた絵のことです。本田庄太郎は明治後半から大正前半にかけて、たくさんの童画を描き、児童雑誌の表紙や挿絵を飾っています。今回は『幼年世界』『コドモノクニ』『キンダーブック』など、当時の子どもたちに親しまれた児童雑誌や絵本以外にも、本田庄太郎の子ども時代のスケッチや原画、五社神社で開かれた初めての個展に出品した縦1.7m、横3.2mの大作

「漁夫の一家」や「掛軸」など120点以上を展示しました。

明治26年、静岡県浜松市に生まれた本田庄太郎は浜松尋常高等小学校、現在の浜松市立中部学園を卒業後上京し、西洋画を学びながら、独学で浮世絵などを習得します。

大正時代、本田は『コドモノクニ』という本で、大衆的な健やかさにあふれた画調が子どもたちに支持され、童画家としての名を不動のものとししました。

昭和になり講談社の絵本で『こがね丸』『孫悟空』を発表しますが、昭和14年『孫悟空と八戒』執筆中に46歳で急逝しました。なお、本田庄太郎の書いた『孫悟空』は21世紀に残したい絵本に選ばれています。子どもたちに夢を与え、子どものために童画を描き続けた本田庄太郎の温かみのある健康的で可愛い子どもたちの童画をご覧ください。絵本がたくさん並んでいるので、大人から子供まで楽しんでいただける展示となっています。

浜松文芸館に来たら、俳句ガチャで合作俳句に挑戦しよう!

静岡大学地域創造学環の学生たちが、表紙の俳人(はいと)くんが動いて見える「スリットアニメーション」を取り入れたクリアファイルを作成しました。俳句ガチャは文芸館を訪れた人に楽しんでもらおうと学生たちのアイデアで誕生しました。クリアファイルは俳句ガチャの記念品として差し上げています。俳人(はいと)くんとことばちゃんが待っている文芸館で合作俳句に挑戦してみませんか。

秋には静岡大学の学生が中心となって文芸館の周りを散策し、俳句を作る小学生対象のワークショップを計画しています。

